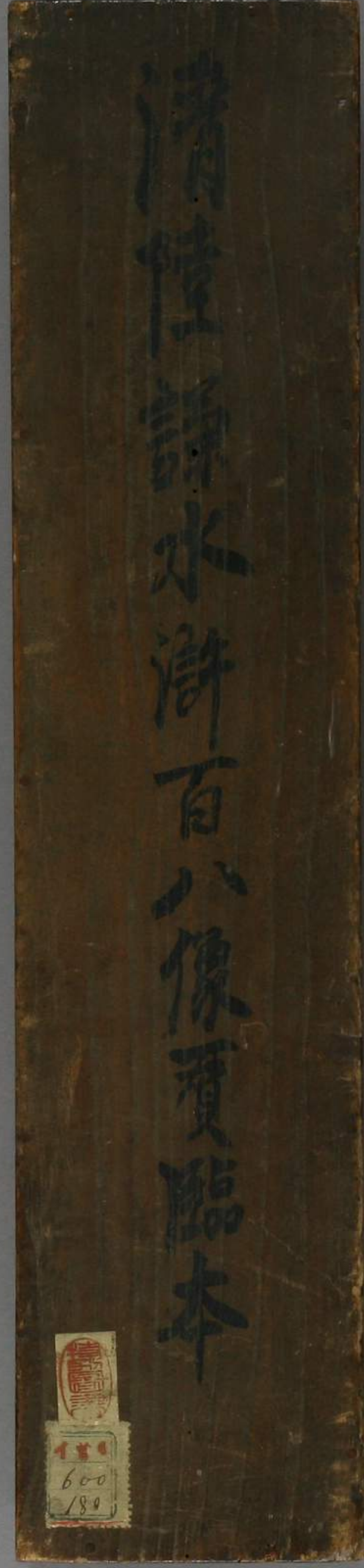




清陸諫水滸百八像寶臨本





清陸謙画水滸百八人像賛臨本



縱橫滿天下義氣獨超羣
宋江



說劍談兵星斗寒
吳用



仇深一奴力敵萬夫
盧俊義



運用絕倫漢室偉人關勝

報讐雪恥身無寄匹夫一怒群雄起

林冲
原本作潘冲今改之

仇深一奴力敵萬夫 盧俊義

運用絕倫漢室偉人關勝

報讐雪恥身無寄匪夫一怒群雄起

林冲
原本作潘冲今改之



涉世鍊形起塵入塵 公孫勝



瓊枝照席海內三
十客 柴進



瓊枝照席海內三
十客 柴進

將軍三箭定天山
花榮

疎財仗義屠龍為技朱仝

飲酒為性殺人為命杖
頭酷虐人不可進魯智深

百戰無雙手敵國逢
佳偶 張清

忘家誠報國鳳柱鸞膠續 秦明

管總累世鵬搏鳳舉馬革濠時
慎終繼始 呼延灼



忘家誠報國鳳柱鸞膠續 泰明



簪纓累世鵬搏鳳舉馬革滌時
慎終繼始 呼延灼



識時務者呼為俊傑 李應



念兄難報已誓刺心斷首
鴛鴦樓 武松



霍鎗竟無敵一
笑已傾城 董平



仕途淹蹇山鬼多相踐 楊志



仕途淹蹇山鬼相踐 楊志

雁翎之名衛人陷人 徐寧



十里江陵一日還 戴宗

幽燕名將器宇 沈雄 索超



氣壯心偏急怒髮邊赤 劉唐



旋風起兮黑雲飛山鬼 潛兮癰夫愈 李遠

旋風起兮黑雲飛山鬼
潛兮癰夫愈 李華



弃家曰仗義刎頭為忘形 史進



樂斯耕稼獨陽
為霸 穆弘



拽拳飛脚雙翅雲中樺 雷橫

醉翁之意不在酒漁翁之
意不在魚 阮小二



中土慕容身東華堪定
昇 李俊
家在得江蘆葉灣 張橫

烟波江上使人愁 阮小五
天雨黑中鬼夜泣蘆花深處
聞羅沽 阮小七



中土莫容身東華堪定
昇 李俊
家在潯江蘆葉灣 張橫

烟波江上使人愁 阮小五
天雨黑中鬼夜泣蘆花深處
聞羅活 阮小七

出沒波濤裡母畏蛟龍起 張順

合則留至則去平所不平
避所不避石秀空即為
色花落翠屏山赤 楊雄

豺狼當道安問狐狸 鮮珍
披草履虎夜山魃舞 鮮寶



豺狼當道安問狐狸 鮮珍
披草履虎夜山魃舞 鮮寶



暫醉佳人琴瑟傍 燕青

干戈滿地一戎衣 黃信
好奇用愛神機妙算 朱武



仁親以為寶 孫立 忘身以為
忠陷身不為恥 吉夢維 何維
井之宿 郝思文 寧將玉樹倚東
霞 宣贊



仁親以為寶 孫立忘身以為
忠陷身不為 耿吉夢維何維
井之宿 郝思文 寧將玉樹倚
黃 宜贊

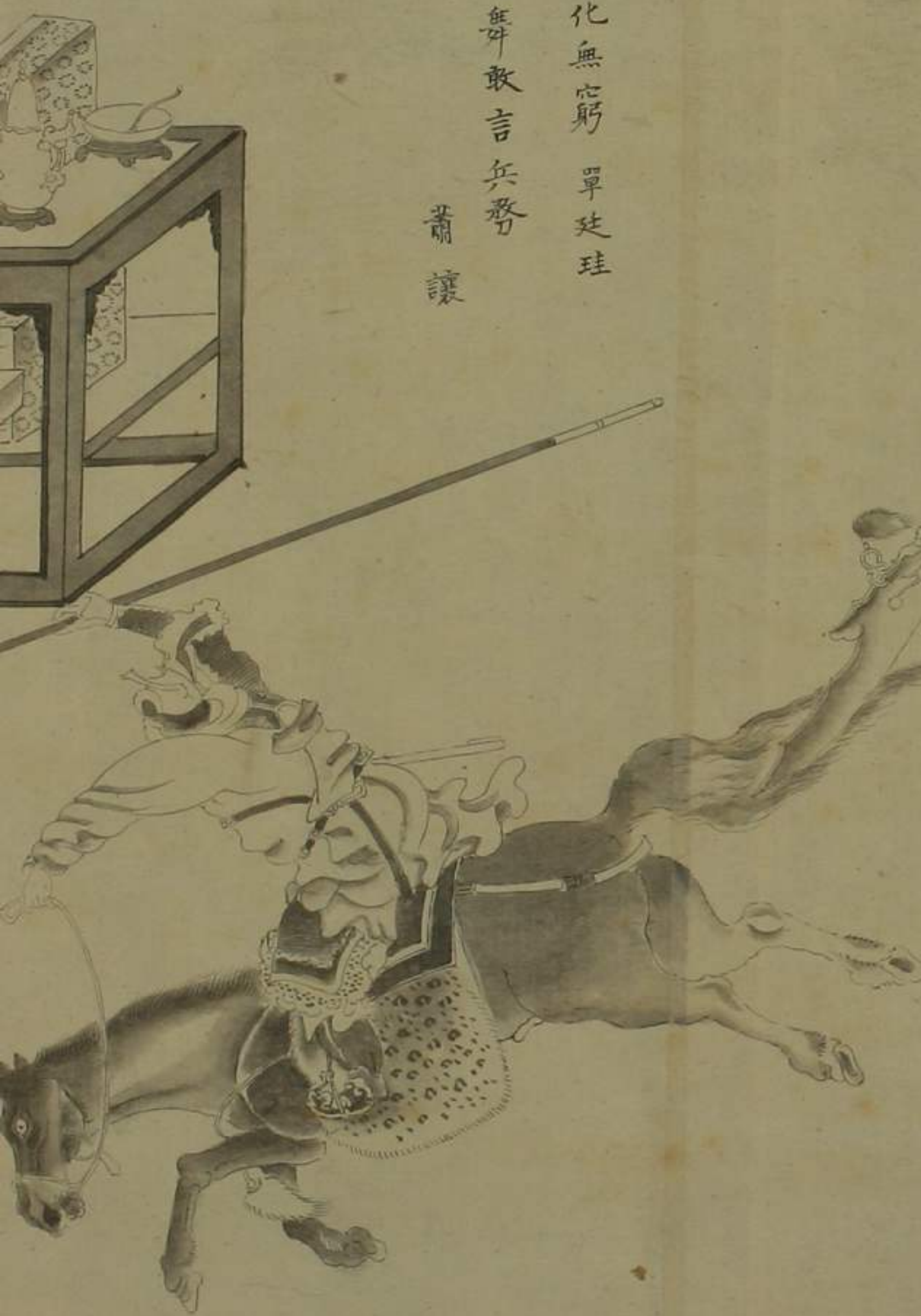


先鋒百戰在 畧地西隅空
韓滔
孤雲隨殺氣血色
耀神刀 彭玘
火旗焰焰燒天
紅 魏定國



烏雲變化無心腸 單廷珪
書生筆舞敢言兵勢

蕭讓



烏雲變化無窮 單廷珪
書生筆舞敢言兵勢 蕭讓

大江寺勇冠軍綠 林豪客氣摩雲
飲馬川前雙眼赤 鄧飛
徑林中鐵鏈急

地軸憾而天開 敵入膽碎
沙場紅淩振寧 為百夫長莫
作一書生 蔣敬

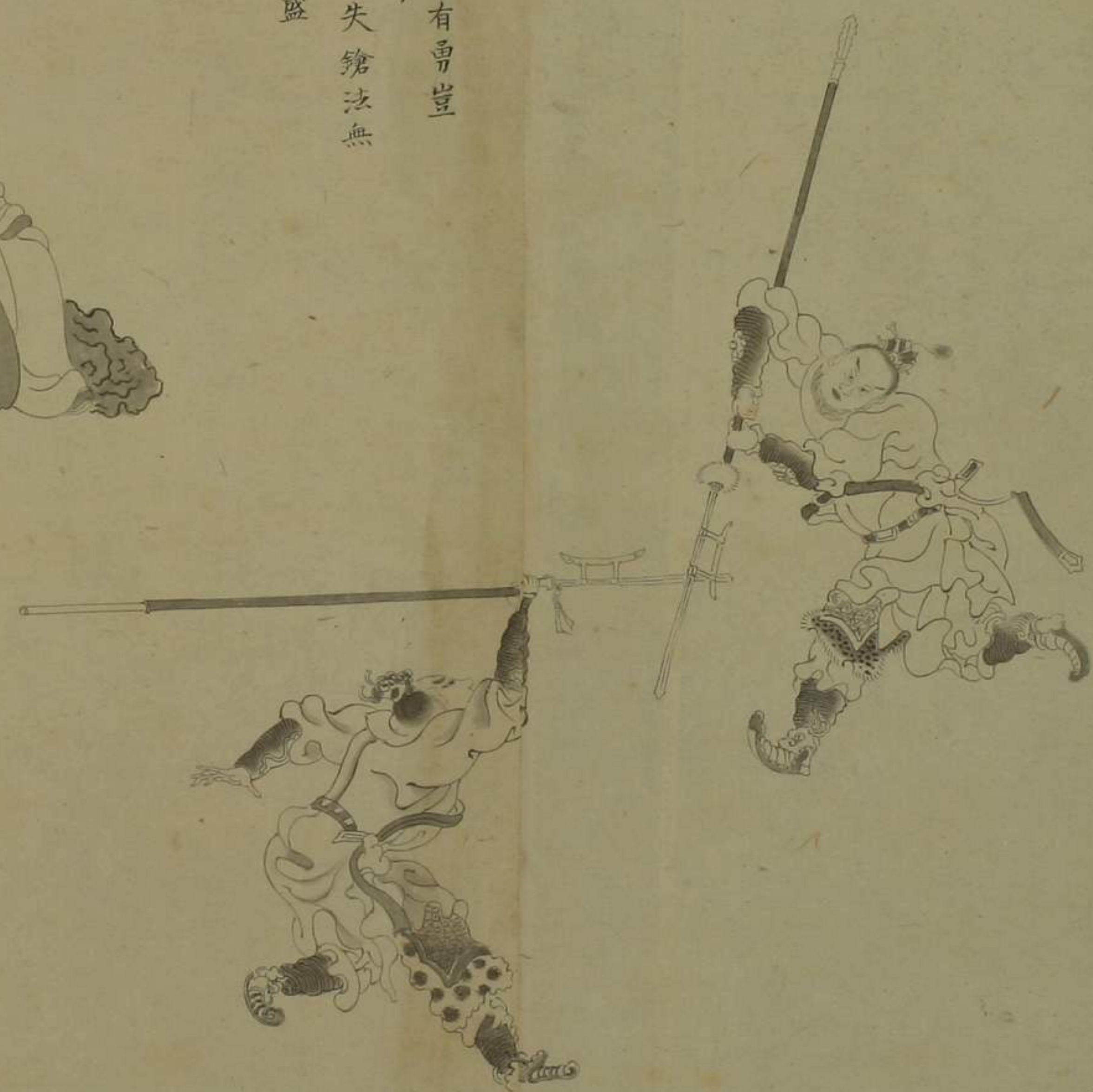


劍橫如雪面冷鐵 裴宣
任俠為俠開義則并 楊林
勁風鳥飛絕虎嘯人跡滅 燕順

地軸憾而天開
 韓敵入膽碎
 沙場紅淚振
 寧為百夫長
 莫作一書生
 蔣敬



相似呂溫
 侯有勇豈
 無勇
 呂方
 刺域有得失
 鎗法無
 雄雌
 郭盛



良方無底應手而起
 安道全

奔蹄來歸無阻
 皇甫端



奔蹄來歸無阻險 皇甫端



色眼迷離口下殘軀易美妻 王英
桃花馬上女英雄 柳葉神刀石榴
紅塵三娘



先報凌冽第一功 鮑旭 風雨興
而兵仗交沙石飛而閉塞黑 樊端
揮金而學技 師事 惲城吏 孔明
心磊落兮性豪華 衣鵝黃兮
酌杏花 孔亮



先報凌冽第一切 艷旭風雨興
 而兵仗交沙石飛而閉塞黑 樊端
 揮金而學技師事憚城吏 孔明
 心磊落兮性豪華衣鵝黃兮
 酌青花 孔亮



雕蟲小技兵權萬里
 金大堅
 江城五月落梅花
 馬麟

雕蟲小技 兵權萬里
 金大堅
 江城五月落梅花
 馬麟

無復分榆赤帝米 項元 勇躍入雲百步
 取人 李蒙 刀能跳澗 勇不讓 人 陳達 滕
 屈史家莊虎視 華陰縣 楊春 馬上
 誰家白面郎 鄭天壽

江上旌旗拂紫烟 童穉春耕秋熟
 燕鵲安能識鴻鵠 陶宗旺 豪爽襟
 懷公輸巧技 孟康 歸去好白蘋紅
 蓼人知少童威





江上旌旗拂紫烟 童猛春耕秋熟
 燕鵲安能識鴻鵠 陶宗旺 豪爽襟
 懷公輸巧技 孟康 歸去好白蘋紅
 蓼人知少童厥



死生有命風塵不定 候健 兜觥其
 酖肯酒思泉 宋清 關山曲裡竹雲濕

樂和



東昌耀武輔翼如虎 龔興旺
 左衛右突氣挽西山落日
 丁得孫
 偏宜附鳳攀龍何必求田
 間舍
 穆春



東昌耀武輔翼如虎
 左衛右突氣挽西山落日
 丁得孫
 偏宜附鳳攀龍何必求田
 間舍
 穆春



能畜救人心錯認操刀鬼曹正
 伯樂不至三旦立市 薛永金
 勒嘶芳草玉樓醉杏花 阮恩



不獨創業難守亦不
 易 壯遠 全身出世開山
 力士 求萬
 博浪沙中求識名

不獨創業難守亦不
易壯遷全身出世開山
力士宋萬
博浪沙中未識名
湯隆



氣壓江東王誰為綠林客
周通
桃花山金鼓振天關
李忠



豪情俠氣四海皆兄弟
鄒潤觸山天
柱折觸水地維跌鄒潤面目如鬼神
斗
膽能照人杜興繼踵獨擅魔頭春永朱
杜康
費智救黑旋風義縣吉眼虎朱富



豪情俠氣四海皆兄弟
 壯折觸水地維缺
 膽能照人杜典繼踵獨擅魔頭春永朱杜康
 費智救黑旋風義縣青眼虎朱富

眉濃眼大性偏奢
 花 蔡慶儀表欲凌雲一羊
 蒼生祝使君 蔡福
 牢騷不平以貌取人焦挺設
 細張羅落日西峯豺虎多
 李立 天涯水涯四海為家

李雲

傾心忘彼士為知己
 死 石魯 荷鐘結英雄
 醉人村酒濃香夫
 為屠妻為沽誰能調
 笑酒家胡孫二娘



醉人村酒濃香夫
為屠妻為沽誰能調
笑酒家胡孫二娘



閨外閨內夫妻列隊
風吹棹花滿店香當爐
曾悍客畏當顧大嫂塵土
暗香雲宜旌旗蔽白日

郁保四

朝秦暮楚赴湯蹈火

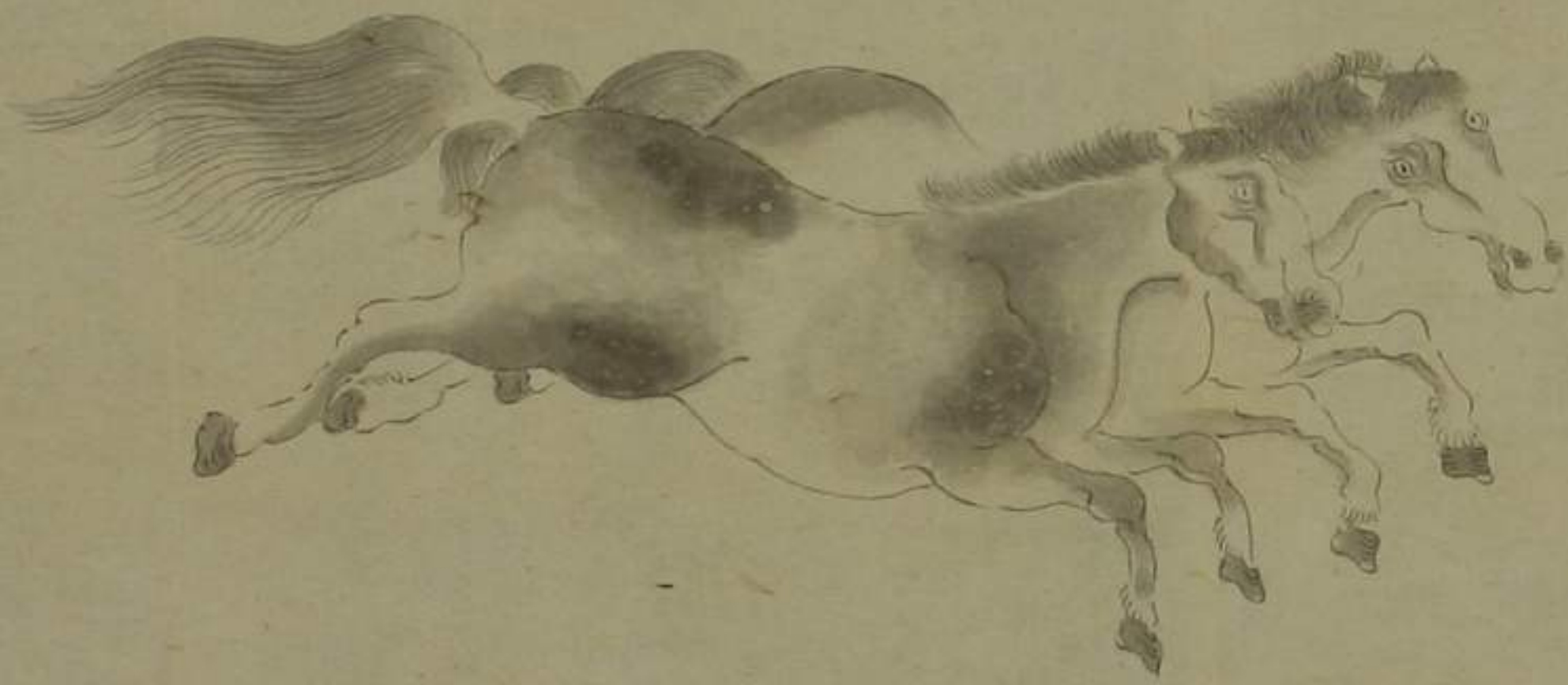
王定六



一醉似登仙
白勝世上於今年是君時



一醉似登仙
帶人此息肩
白勝世上於
今年是君時
還千里致名
駒翻然北牡
殷景任



漁莊陸識法李龍眠筆於西冷之竹倚草堂

陸

識

天保乙未秋 蘇洲寫

蘇

洲

漁莊陸謙法李龍眠筆於西冷之竹倚草堂

陸謙

龍眠

天保乙未秋

蘇洲寫

蘇洲

右清陸謙畫水滸一百八人像實以耕雲外史南濱摹寫
卷軸再寫爲南濱落款壬辰夏五月偶見此軸不覺故
年因摹其圖云云像實誤寫是身今推文而改正畢

著作堂 龍澤文庫

水滸傳二箇乃隱微あり唐山北の文人學士乃彼
書をいふれとゆへをいへ水滸を評注するも其
以て藏をせし元とある金瑞李贊とありて
知ると予當あるとあるありとあるといふ二箇乃
隱微と當時世に出現の妖魔も一百一十あり
幸又洪信と王進と便に前後身王進と
史進と師第一體あると又宋江等百八人は
初善中惡後忠の二等ある事即是なり予の
彼妖魔の着落を百十人あるといふ一箇
第一回洪太尉誤走妖魔と一段の那道
黒氣直冲到中天裏空中教作百十
道金光望四面方去るとありて此の當日
洪信の誘ふところを一百十の妖魔形を
後束とある百八人の真像とあるとある
二妖魔足るものありとあるとある二箇の大妖

黒氣直冲到中天裏空中教作百十
道金光望四面方去了とありけり當日
洪信の誘ふまゝも一百十の妖魔なる
後束まりたる百八人の高傑とわるといふ
二妖魔足るはる考ふと這二箇の大妖
魔はるの奸險光暴の心も甚しうされし
宋の天下を傾けたる一人と太尉高俅又一
人も鬼蓋をせしめたる一百八妖魔も俱
そ人間に出現し宋の天下を闇せし
とも光暴乃中よけられし好所あるゆゑ
とて天罡地煞の數は應に自刑し
るの妖氣を鎮め後竟に宋の爲に俱に忠
義を盡せしこの條妖魔高俅と鬼蓋を
しる善果なり故に天罡地煞の數はゆゑ
開く妖魔光百十道とあり二妖魔残
あり高俅鬼蓋をせしめたる作者の隱微
あり知音の發揮に儘せし又洪信も
王進ハ前後身といふと初に太尉洪信ハ
石碣を讀み衆魔を走し後教頭
王進と史進は武藝を傳へし衆魔を
出現し賢奸の差ありとも俱に妖
魔をせしめたる事ありは是にあり且洪
と王と音近し信と進も音近し見るに

王進と史進は武藝を傳へしもの衆魔世に
出現は賢奸の差あるをいへとも恨は妖
魔を世にあらざるを言ふは是一なり且洪
と王と音近く信と進も音近し見るをし
不信の太尉を信と名つる退隱乃教頭を
進と名付けし理も亦胡元瑞の所謂
或文ハ其名を顛倒は婦を夜に宜れを
命するは且そのし用場事を始るを則
今此の末をそのし汚穢潔くはる乃
命するは淨をそのし清くはる乃
水滸乃化者衣冠を賊と草賊を忠義
と名づるその名を顛倒く脚色を建する
なりと金瓶外書評注の云ふ事人数言
形も悽とくく大の義をくく切は投る能
體説をくく自願するゆふは足る易
緯より一毫ある誤りも差ある千里を
さるあるや又王進と史進とを師弟一
體とするは進進を同名に且その姓を王
と命し史とせしは作者の深意あり史ハ五
更を録するは王氏の技藝を史氏の續
の義猶且王事と野史の録するはこれ
のいふを理するを金瓶と史とを辨する

と命し史とせしむ。作者の深意あり。史ハ五
夏之録とあり。王氏の技藝を史氏の續
の義猶且王事と野史の録とをいふは
王事あり。其の義あり。史とを辨しむ。
ねり。史と野史と。史進と王進と。家と留めし
師とせし。程となく。少華山。賊の
頭領。朱武。楊春。陳達。等。通同せし。乞
百八箇の強人の世。何れを。嚆矢。初め
洪信の石碣を讀み。後ハ王進の史進。武
藝と傳へし。や。前後極め。照應あり。か
史進の世。ハ。王進と隠れ。進進
一體なり。史進ハ。即王進。王進ハ
史進の影。去る形。一進一退。用用。王
進ハ。結局。職。これの由。王
金瑞。李執。義を悟。水
那。水滸。後傳の化。鴈宕山。樵ハ。其書
王進を再出。李俊。下の大將。前傳の真面
目。損。又宋江。一
ハ人。初善。中惡。後忠。の二等。一
と。晁蓋。の。水滸の。一書。抑
羅貫中の水滸の。一書。抑

目を損ふ事を知りしやれ之又宋江等一百
八人の初善中惡後忠の三等ありといふ
るゝと晁某に予の志するふかかれ終焉々々
ふふ具ふせと抑羅貫の水滸の一書也
宜和遺事なる宋江李進義等の徒二十
六人の事なり廣く終成くも另に地煞七十二人を
他より添ふれぬと楊志の市に寶劍を售る事
や宋江の肩膊情を奪りて之を反に殺さるや
彼遺事よりいふやむとあるは金瑞とて此を辨
せと宋史を引くもやれと宜和遺事を引くも
とあるは金瑞ハ水滸の皮肉を知れるや骨
髓をいふやれは予も亦水滸を評せんや
思ふに久しく水滸を讀むは眼をこれに九
牛の一毛なり作者の隱微を發揮しと世筆
はみよ及へるは水滸の作者とせよと久々
皇國世云美
久小は来りては吾も其言に
たふさずと久々思ふは鼻乃ここを
十幾秘藏の説なり哉同好一二の友と
ふと或やとくのとて平をいふ

水滸隱微評一編天保二年鼻月應於一友人
と需所述今又貼此画卷篇九四代題跋時

乙未秋九月し吉

蒼蓋漁隱書



に及ぶ水滸の礼者とせよあはれ

皇國

如云美
久小

よまふとあるにほふとていふ言ふ

さる志事とあるとある思ふ海鼻乃こくくまふ
十製秘藏の説むる浅同好一二の友とある
又とあるとあるのさふとある

水滸隱微評一編天保二年鼻月應於一友人
之需所述今又貼此画卷篇九代題跋時

乙未秋九月吉日

兼益漁隱書

